

【単元ゴールとなる言語活動:修学旅行で京都に行っていない他の学校の生徒に京都のおすすめ観光スポットベスト2を伝えるために、簡単な語句や文を用いて紹介する】

【目的】修学旅行で京都に行っていない他の学校の生徒に京都のおすすめ観光スポットベスト2を伝えるために【場面】Zoom上で新しく習った表現とパワーポイントを使って【状況】他県の学校の生徒に紹介する

## 三つの柱の資質・能力

### 学びに向かう力、人間性等

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。

### 知識及び技能

義務や命令、禁止を表す助動詞等の肯定文・疑問文とその答え方・否定文や動名詞の形・用法・意味を理解すること。このような言語材料と言語活動を効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けること。

### 思考力、判断力、表現力等

#### 話すこと[発表]

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにすること。

### 「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

### 「単元の目標」

これから修学旅行に行く他県の学校の生徒に京都とUSJの回り方のコツを伝えるために、Zoom上で新しく習った表現とパワーポイントを使って、他県の学校の生徒に紹介したり、質問に答えたりすることができる。

### 【既習事項との関連】

助動詞 can や「～すること」を意味する「to + 動詞の原形」についての学習。

## 単元デザイン【全9時間】

### 【第1・2時】

必要性や義務を表す<have to + 動詞の原形>の形・意味・用法を理解し、京都のおすすめNo1観光スポットについてのミニスピーチをすることができる(記録に残す評価は行わないが、単元目標達成に向けて指導を行う)。

### 【第3・4時】

助動詞mustの形・意味・用法について理解し、京都のおすすめNo1観光スポットについてのミニスピーチをすることができる(記録に残す評価は行わないが、単元目標達成に向けて指導を行う)。

### 【第4時】

動名詞は「～すること」という名詞の働きを理解し、さらに詳しい京都のおすすめNo1観光スポットについてのミニスピーチをすることができる(記録に残す評価は行わないが、単元目標達成に向けて指導を行う)。

### 【第5・6時】

修学旅行で京都に行っていない他の学校の生徒に京都のおすすめ観光スポットベスト2を伝えるための発表スライドと原稿を作ることができる(記録に残す評価は行わないが、単元目標達成に向けて指導を行う)。

### 【第7時】

修学旅行で京都に行っていない他の学校の生徒に京都のおすすめ観光スポットベスト2を伝えるために、Zoom上で新しく習った表現とパワーポイントを使って、他県の学校の生徒に紹介する準備をすることができる(記録に残す評価は行わないが、自己評価をし、単元目標達成に向けて指導を行う)。

### 【第8時】(本時)

修学旅行で京都に行っていない他の学校の生徒に京都のおすすめ観光スポットベスト2を伝えるために、Zoom上で新しく習った表現とパワーポイントを使って、他県の学校の生徒に紹介することができる(記録に残す評価は行わないが、ルーブリックシートを使って自己評価をし、単元目標達成に向けて指導を行う)。

### 【第9時】

スピーキングテストとしてALTの前で京都のおすすめ観光スポットベスト2を伝えるプレゼンをすることができる。

## 本時案

### 【本時の目標】

簡単な語句や文を用いて、京都のおすすめ観光スポットベスト2について紹介することができる。(話すこと<発表>)

### 【本時の評価方法】

記録に残す評価は行わないが、ルーブリックシートを使って自己評価をし、単元目標達成に向けて指導を行う。

### 【本時の流れ】

1. 本時の流れについて確認する。(メインセッション)  
パワーポイントを見ながら本日の流れを把握し、本時の見通しを持つことができるようにする。
2. 5~6人グループでパワーポイントを使って1人、1分程度のプレゼンをし、コメント、質問を受けたり、橋中(交流相手)の生徒の発表にコメント、質問をしたりする。(ブレイクアウトルーム)
3. 【中間評価】ルーブリックシートを使って本時の振り返りを行い、教師の指導助言を聞く。(メインセッション)  
自己評価の結果を踏まえて、指導、助言することで、次回の発表を改善することができるようにする。
4. グループを変えてもう一度プレゼンをする。(ブレイクアウトルーム)
5. 本時の振り返りをする。(メインセッション)

### 見方・考え方を働かせている生徒の姿

相手におすすめスポットを伝えるから、習った助動詞の should や must、may などを使うと論理的に話せそうだね。

大事なところは大きくしたり、ゆっくり話したりと、抑揚をつけたほうが聞き手は楽しく聞けるね。

正しく伝えるためには、スライドやジェスチャーを工夫しなくてはいいね。

### 外国語の見方・考え方を働かせている生徒の姿

- ・目的や相手を意識し、話し方、スライドの使い方を工夫している姿。
- ・相手を意識し、英語でやり取りする中で、場面に応じた意見を考えている姿。

### 外国語の見方・考え方を鍛える教師の姿

1. 既習表現を確認し、どのような語句や表現を用いて話すかを気付かせる。
2. 生徒の発話を取り上げ、既得の知識から言語面の修正や導入を行う。

### 主な資質・能力の系統

#### 「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

#### 中学校 第1学年

関心のある事柄や体験したことなどについて簡単な語句や文を用いて話すことができる。

#### 中学校 第2学年

日常的な話題について事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

#### 中学校 第3学年

社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合うことができる。

本単元